

令和5年8月15日

お供え物の処分方法などに関するアンケート結果

アンケートの目的

第13回ごみ処理・リサイクル事業あり方検討委員会において、委員から寺院から排出されるお供え物の食品ロス削減について意見があったことを受け、市内にある寺院に対し、お供え物の取り扱いなどについて調査を行った。

アンケートの概要

《調査期間》	令和5年6月5日 ~ 令和5年6月23日(19日間)
《調査対象》	室蘭市内にある寺院 39寺
《回答率》	71.8%(28/39寺)

回答結果概要

1. お供え物の取り扱いとその理由について

○主なお供え物の品目

ほとんどの寺院が「果物」や「お菓子」を挙げている。

○お供え物の取り扱い

約70%が「お下がりとして配る」や「持ち帰り」と回答した一方で、約24%が廃棄処分としており、多くのお供え物が廃棄されている。

2. 可燃ごみの廃棄量

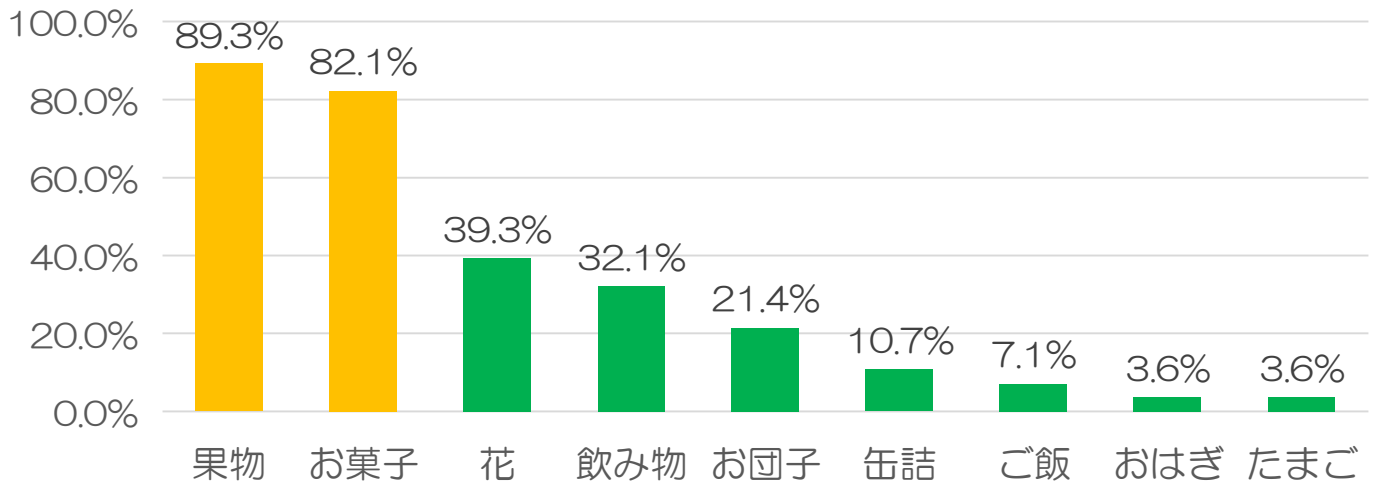
廃棄量の多い時期として、8月(お盆)や3月、9月(お彼岸)を挙げている。

3. お供え物の食品ロス削減の推進について

約6割が「食品ロス削減を推進すべき」と回答した一方で、約3割が「食品ロスと考えるべきではない」と回答した。

1. お供え物の取り扱いとその理由について

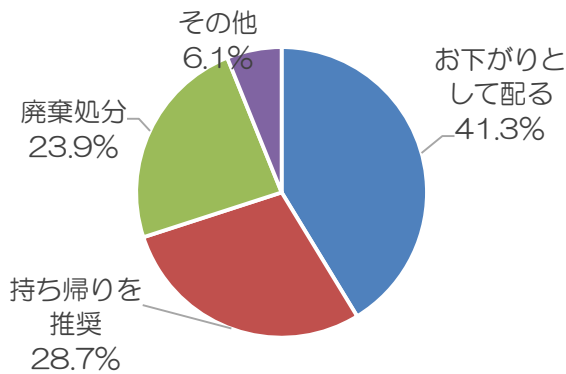
① 主なお供え物の品目



	果物	お菓子	花	飲み物	お団子	缶詰	ご飯	おはぎ	たまご
件数	25	23	11	9	6	3	2	1	1
割合	89.3%	82.1%	39.3%	32.1%	21.4%	10.7%	7.1%	3.6%	3.6%

お供え物の多くは「果物」や「お菓子」などの食品が大半を占めている。

② お供え物の取り扱い



分類	割合
お下がりとして配る	41.3%
持ち帰りを推奨	28.7%
廃棄処分	23.9%
その他	6.1%

(上記の取り扱いとする主な理由)

○お下がりとして配る

- ・生の果物は禁止とし、ゼリーや缶詰など日持ちする物をお供えしてもらうようにしている。
- ・廃棄量が多く、少しでも少なくしたいため

○持ち帰りを推奨

- ・お供え物は原則、持ち帰りをお願いしているが、お盆やお彼岸は置いていく人が多い。
- ・故人の供養のために、各家庭でいただいてほしいと考えている。

○廃棄処分

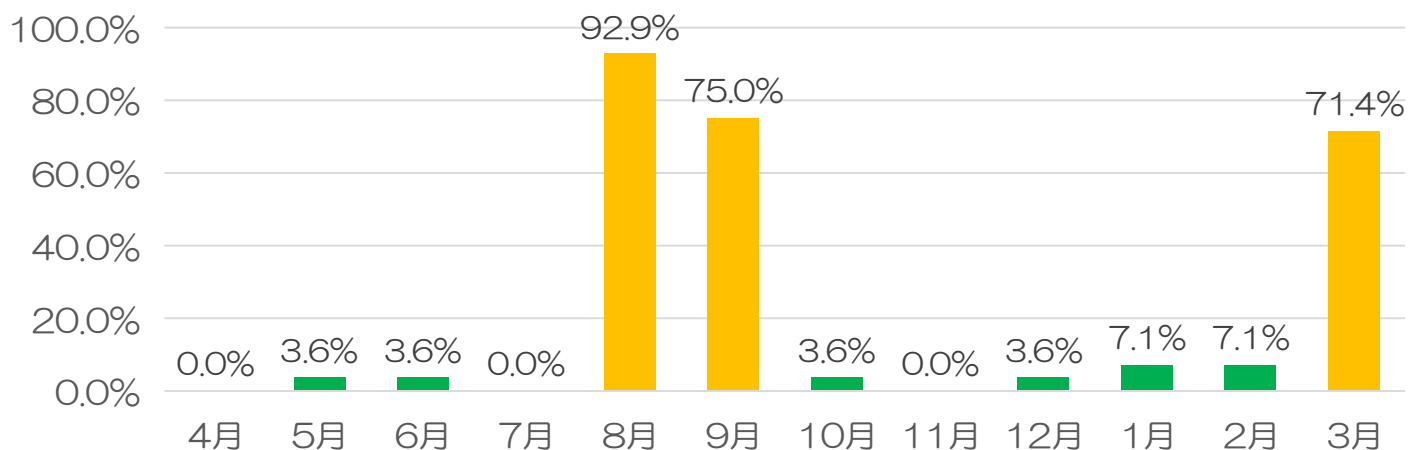
- ・量が膨大でやむを得ず廃棄処分している。
- ・お下がりを嫌う人が多くなってきたため。
- ・お供え物をしてすぐ持ち帰るのは先祖に申し訳ないという人がいるため。

○その他

- ・お寺で消費している。

2. ごみの廃棄状況について

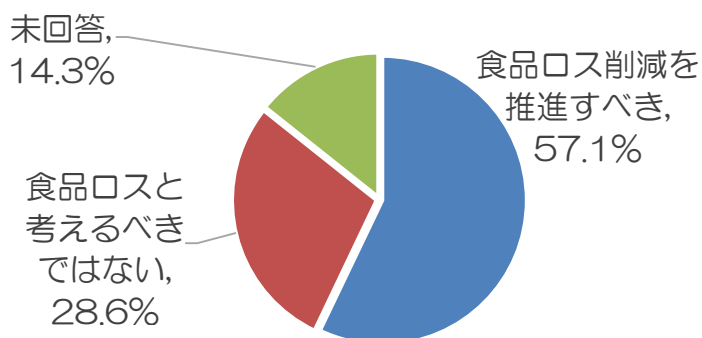
①ごみ量が多い時期



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	0	1	1	0	26	21	1	0	1	2	2	20
割合	0.0%	3.6%	3.6%	0.0%	92.9%	75.0%	3.6%	0.0%	3.6%	7.1%	7.1%	71.4%

お盆（8月）とお彼岸（9月、3月）にごみ量が集中している。

3. お供え物の食品ロス削減に対する考えについて



分類	割合
食品ロス削減を推進すべき	57.1%
食品ロスと考えるべきではない	28.6%
未回答	14.3%

(上記の考えである主な理由)

○食品ロス削減を推進すべき

- ・捨てるのはもったいないと思う。
- ・お供え物であっても下ろしたら食品であるため。

○食品ロスと考えるべきでない

- ・故人に対する感謝への思いを供物に添えてお供えしているものだから。
- ・遺族が亡き先祖のために供えるものであり、単純に食品ロスに当てはめるのは少々乱暴な気がする。
- ・削減するよりもお供え物が無駄にならない方法を考えた方が気持ちよくお参りできるのではないか。

4. お供え物の廃棄を減らすために寺院でできる取組

- ・賞味期限が長い品物をお供えしてもらおう。
- ・檀家、檀信徒へ配る。
- ・置いていくなら「使い回せる」ものを上げてと啓蒙する。
- ・配布物や掲示板での周知。

5. お供え物の廃棄を減らすために市に取り組んでもらいたいこと

- ・食品ロスを削減するために、供物の再利用(食堂等で食材として利用)を試してほしい。
- ・「生きている人のためのお供物を考えてみませんか？」という啓発してみてください。
- ・広報紙などでお供え物を持ち帰るよう啓発してほしい。
- ・お彼岸やお盆のときに菓子や果物をもらってくれる施設など情報提供があると助かる。
- ・寺院で考えるべき問題で市が介入すべきではないように思う。

6. その他意見

- ・「お供え物も食品ロスとなっているのでは」という意見について、重く受け止めなければならないと感じた。
- ・行政の後押しと周知により、一般の方々や各寺院の理解が得られるのではないかと。
- ・お参りに来てお供えをすることへの考え方は十人十色で異なる。
- ・お供え物を食品ロスとして考えていない。